

3月16日地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (続報3)

< 参 考 資 料 >
2022年3月22日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【地震情報】

発生：2022年3月16日(木)午後11時36分頃
震源：福島県沖
深さ：約60km
規模：マグニチュード7.3
震度：立地町：双葉町6弱、大熊町6弱

更新箇所

- ・5,7,8～13頁の下線部
- ・16～19頁

【プラント状況】

◆地震計

- ・水平：221.3ガル（6号機）
- ・垂直：202ガル（6号機）
（区分Ⅲ）
- ・3号機原子炉建屋1階、5階、およびタンクエリア4箇所に設置している地震計において、地震データが取れていることを確認しています。今後、地震データを評価してまいります。

◆観測された津波の高さ

- ・約20cm（観測時刻：3月17日午前1時33分）

◆設備の状況

- ・原子炉注水設備（1～3号機）：異常なし
- ・モニタリングポスト指示値：有意な変動なし
- ・敷地境界ダストモニタ指示値：有意な変動なし
- ・構内線量表示器指示値：有意な変動なし
- ・海水放射線モニタ指示値：有意な変動なし
- ・構内排水路モニタ指示値（物揚場以外）：有意な変動なし
- ・構内排水路モニタ指示値（物揚場）：地震前の60から230Bq/Lに上昇（高警報設定値：1,500Bq/L）
⇒ 3月17日午前1時30分頃、下降傾向
- ・連続ダストモニタ：以下の変動を確認
 - 2号機原子炉建屋：3月17日午前0時9分に警報発生、午前1時0分頃に最大値 5.3×10^{-3} Bq/cm³
（高警報設定値： 1×10^{-3} Bq/cm³）
 - 1/2号西側法面： 1.47×10^{-5} Bq/cm³（警報未発生、高警報設定値： 5×10^{-5} Bq/cm³）
 - 1号海側（2.5m盤）： 1.11×10^{-5} Bq/cm³（警報未発生、高警報設定値： 5×10^{-5} Bq/cm³）
 - 3号海側（2.5m盤）： 1.55×10^{-5} Bq/cm³（警報未発生、高警報設定値： 5×10^{-5} Bq/cm³）⇒ 上記いずれにおいても3月17日午前1時0分頃以降、低下傾向を確認
また、2号機原子炉建屋における高警報は3月17日午前4時39分クリア

時系列（1 / 12）

◆3月16日

- 午後11時34分 5号機使用済燃料プール冷却ポンプ自動停止（※午後11時34分頃の地震に伴い停止）
⇒ 3月17日午前4時8分運転を再開
- 午後11時36分 事務本館で火災報知器が作動
- 午後11時37分 陸側遮水壁において冷媒を供給するポンプが過電流検知により自動停止
- 午後11時50分 5号機タービン建屋2階3カ所において火災報知器が作動
⇒ 3月17日午前0時5分 双葉消防本部へ連絡（一般回線）
3月17日午前0時23分 富岡消防到着
3月17日午前1時22分 現場確認の結果、火・煙の発生がないことを確認
3月17日午前2時7分 富岡消防から「誤報」判断
- 午後11時52分 原子力警戒態勢を発令（EAL地震）
- 午後11時59分 2号機SFPスキマサージタンク水位低下。2号機使用済燃料プール冷却設備を手動停止。
隔離弁閉。水位低下停止。
⇒ その後、運転上の制限（65℃）に到達しないと評価
⇒ 午前7時38分運転を再開

◆3月17日

- 午前0時9分頃 2号機原子炉建屋に設置している連続ダストモニタにおいて高警報発生
- 午前0時18分 水処理設備の運転を停止
⇒ パラメータに異常なし
- 午前1時0分 汚染水タンク水位指示に異常がないことを確認
- 午前1時0分頃 2号機原子炉建屋に設置している連続ダストモニタにおいて低下傾向を確認
- 午前1時5分 1～4号機、5・6号機、共用プールのプール水位に低下がないことを確認
- 午前1時19分 当社社員による高台タンクエリアパトロールを開始（区分Ⅲパトロール開始）

時系列（2 / 12）

◆3月17日

- 午前2時20分 6号機使用済燃料プールにおいて、スロッシング（水の揺れ）に伴うものと推定される水溜まりを確認
- 午前2時35分 5号機使用済燃料プールにおいて、スロッシングに伴うものと推定される水溜まりを確認
- 午前2時45分 6号機タービン補機冷却系（純水）サージタンクの水位低下（55mm/h）を確認
- 午前2時45分 既設淡水化装置ウルトラフィルタ洗浄水槽の底部固定ボルトから、鉛筆2本の漏えいを確認。水槽の隔離を実施。漏えいは堰内に留まっていることを確認
⇒ 漏えい範囲は約6m×6m×深さ1mm。漏えいした水は淡水化处理した後の淡水
- 午前2時48分 ろ過水純水装置の污泥装置油圧ポンプから数分に1滴程度の油滴下を確認。漏えい量約50cm×50cm×深さ1mm。弁閉止操作により油滴下が停止したことを確認
- 午前2時50分 高台タンクエリアパトロールにおいてJ5・G6タンクエリアに堰の塗装にめくれを確認
⇒ 当該タンクエリアの周囲に漏えい等は確認されていない
- 午前3時0分 ストロンチウム処理水タンク（H8-A3）に位置ずれを確認
⇒ 連結配管からの漏えい、およびタンク水位低下は確認されていない
- 午前4時10分 ろ過水設備の西側にある雨水を保管しているノッチタンクから鉛筆3本の漏えいを確認
- 午前4時20分頃 運用補助共用施設（共用プール建屋）において、スロッシングに伴うものと推定される水溜まりを確認
- 午前4時30分頃 淡水化装置（RO-2）亜硫酸ソーダタンクがスロッシングにより漏えいしていること、および漏えいは堰内に留まっていることを確認。漏えい範囲は約1m×1m×1mm。
- 午前4時31分 ALPS処理水等タンクの一部の水位計に水位計測範囲逸脱を確認
⇒ 漏えい等の異常がないことを確認
- 午前4時55分 5号機原子炉建屋空調設備において空調隔離弁が全閉し、自動停止していることを確認
⇒ モニタ指示値に有意な変動は確認されていない

時系列（3／12）

◆3月17日

午前5時0分 設置工事中原水ろ過水純水汚泥増設排水設備の処理水タンクに亀裂、およびろ過水の漏えいを確認

⇒ 同設備は試運用中であり、放射性物質の漏えいはない

午前5時13分 高性能ALPSサンプルタンク（A,C）および増設ALPSサンプルタンク（A,C）において、位置ずれを確認

⇒ 漏えい等がないことを確認

午前5時48分 1号機原子炉格納容器圧力について、一度上昇し、低下していること確認

⇒ 3月16日午後10時30分（地震発生前）：0.13 kPa

3月16日午後11時37分（地震発生後）：0.28 kPa

3月17日午前5時37分（その後）：0.00 kPa

午前5時59分 1号機原子炉建屋に設置している連続ダストモニタに有意な変動がないことを確認

午前6時25分 運用補助共用施設（共用プール建屋）において、排気放射線モニタのサンプルポンプが停止していることを確認

午前6時25分 6号機タービン補機冷却系海水ポンプ（A）冷却水の入口弁下流から水が漏えいしていることを確認

午前6時29分 6号機タービン補機冷却系海水ポンプを（A）から（B）へ切り替え、（A）を隔離。タービン補機冷却系サージタンク水位低下が停止したことを確認。冷却水は純水であり、放射性物質の漏えいはない

午前6時29分 4号原子炉建屋カバー建屋内に梁のような鉄骨が落下していることを確認

午前7時38分 2号機使用済燃料プール冷却設備の運転を再開。

⇒ 現場確認により、運転状態に異常がないことを確認

午前8時まで確認

1号機原子炉建屋1階連続ダストモニタが 5.7×10^{-4} Bq/cm³で上昇中であること、2号機原子炉建屋1階連続ダストモニタは低下傾向であることを確認。その他の建屋内モニタに有意な変動がないこと、若しくは低下傾向であることを確認。

時系列（4 / 12）

◆3月17日

以下、午前8時までに確認

- 滞留水移送設備、セシウム吸着装置等、淡水化装置等、多核種除去設備等、サブドレン他浄化設備、陸側遮水壁設備、地下水バイパス設備に漏えいがないことを確認
- 1～3号CST炉注水設備、共用FPC設備、使用済燃料プール二次系設備、電源設備のパトロールが完了していることを確認
- 5,6号機原子炉建屋・タービン建屋、廃棄物処理建屋、雑固体廃棄物焼却建屋において、漏えい等の異常がないことを確認

以下、午前9時までに確認

- 一時保管エリア「a」に保管しているコンテナ6基が転倒し、内容物が出ていることを確認。転倒したコンテナのうち5基が使用済保護衣、1基が鉄くずを保管。内容物の線量測定をした結果、バックグラウンド同等であることを確認
- 構内道路の一部（アスファルト）に亀裂を確認。通行に支障なし
- サブドレン集水タンクNo.1の防水塗装に剥がれを確認。タンク機能に影響なし。
- タンク水位計指示値不良38台確認。うち27台は初期化作業により復旧。残り11台は予備品を使用し復旧する予定
- 5号機原子炉建屋の階段（4～5階）踊り場に水たまりを確認。水の滴下は止まっていることを確認
- 5・6号機敷地護岸ヤード地表面で地割れや地盤の沈下を確認。当該ヤードで多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置に必要な環境整備工事を実施中であるが工事の立坑への影響がないことを確認。

以下、午前10時までに確認

- 複数のタンクエリアにおいてタンクの位置ずれ、および堰内の防水塗装にはがれを確認。詳細な基数を継続的に確認。なお、タンク基礎は固定させず、地震の揺れに伴い位置ずれする設計となっております

時系列（5 / 12）

◆3月17日

以下、午前10時までに確認

- 1号機原子炉建屋内連続ダストモニタの指示値上昇確認について、その後、上昇前のレベルまで低下したことを確認。
- 物揚場P S Fモニタ上昇について、サンプリングの結果、排水路本流とモニタ集水槽の全ベータの値に差がないことから、モニタ検出器自体が汚染されたものと判断。
- 5号機原子炉建屋において、放射性液体漏えい警報が発生。今後、現場確認を実施予定

以下、午前11時までに確認

- 5号機原子炉建屋で発生した漏えい検知警報について、現場確認の結果、残留熱除去海水系の配管貫通部より、鉛筆4本程度の太さで室内に流入していることを確認
- Fエリアのタンク6基において、フランジ部から2秒に1滴、水が滴下していることを確認。滴下した水は堰内に留まっている
- 雨水モバイル受入タンク（A）の受入配管から連続的に滴下していることを確認
- 雨水処理設備RO膜ユニット（A）A-1入口配管付近から1分に1滴、水が滴下していることを確認。滴下した水は堰内に留まっている。また当該設備は現在停止中であり、今後、当該部の養生を実施する予定。
- 滞留水移送設備等については準備が整い次第復旧を開始いたします。

以下、午後0時までに確認

- 5号機原子炉建屋の階段踊り場で確認した水たまりについて現場確認を行った結果、3階、4階、および4階から5階の階段室踊り場に水たまりがあることを確認。水たまりについては使用済燃料プールから溢水した水が水面近傍の空調ダクトに流入し、つなぎ目部から滴下した可能性があるものと推定。現在、滴下は停止しており、拭き取りを実施。

時系列（6 / 12）

◆3月17日

以下、午後0時まで確認

- H2エリアタンクC3-D3タンク間の連結管付根部の下部に水たまりを確認。現在、付根部からの滴下はなく、堰内に留まっております。
- 下記の漏えい箇所について漏えいが停止したことを確認
 - ・原水ろ過水純水汚泥増設排水設備の処理水タンクからのろ過水漏えい
 - ・既設淡水化装置のウルトラフィルタ洗浄水槽からの淡水化処理水漏えい
- タンク水位計指示不良については1台が復旧、38台中28台の復旧が完了。残り10台については予備品を使用して復旧する予定。
- 5・6号機ゲートから海拔2.5mエリアの海側に向かう道路で沈下が確認され、当該箇所の通行が不可

以下、午後1時30分まで確認

- 区分Ⅲパトロールが完了しました（午後0時35分）。パトロールにおいて確認された水漏れ等の不具合に対しては、対策を講じてまいります。なお、引き続き定例のパトロールにおいても現場設備の状況を注視してまいります。
- 滞留水移送設備の滞留水移送ポンプ全台の起動を完了し、起動後の健全性が確保されていることを確認しました。
- Fタンクエリアのタンク6基について、滴下箇所の養生が完了しました。（11カ所）

以下、午後2時30分まで確認

- 運転員の定例パトロールにおいて3号機廃棄物処理設備建屋1階において、以下の配管貫通部から水の流入を確認。なお、流入した水は堰内に留まっている
 - ・使用済燃料プール設備1次系ろ過脱塩器（B）の入口配管貫通部（鉛筆1本分の太さ）
 - ・同系出口配管貫通部（1秒間に5～6滴）

時系列（7 / 12）

◆3月17日

以下、午後2時30分までに確認

- H2エリア堰内C3-D3タンク連結管付根下部の水たまりについて、分析結果より雨水と判断。
- 5号機使用済燃料プールの揺れにより溢水した水の拭き取りが完了
- 6号機原子炉建屋オペレーションフロアにおいて、燃料プール水の揺れにより溢水した水の拭き取りが完了
- 港湾にある設備の点検結果については以下の通り
 - ・1-4号護岸エリア、5-6号護岸エリアのフェーシング等にひび割れを確認
 - ・メガフロート北側護岸ブロックにずれがあることを確認
 - ・その他護岸周辺設備に異常は確認されていない
- 一時保管エリア（f）で地震発生以前に破損が確認されていたコンテナについて、今回の地震で破損状況の拡大を確認しました。当該コンテナの内容物は使用済保護衣であり、内容物の線量はバックグラウンドと同等であることを確認
- 一時保管エリア（N）において屋根の一部が破損していることを確認
- 5・6号機正門～2.5m盤に向かう道路で舗装や地盤の沈下を確認。現状、車両が進入できない状況にあることから、応急復旧対策を実施予定
- 新設港湾ヤード全体で、舗装の沈下や割れ、護岸全体の沈下、護岸ブロックの変位等を確認。現状、車両が進入できない状況にあることから、応急復旧対策を実施予定。

時系列（8 / 12）

◆3月17日

以下、午後4時0分までに確認

- 一時保管エリアaで転倒していたコンテナ6基の内容物について詳細確認を実施したところ、4基が使用済保護衣、2基が鉄くずであることを確認。なお、転倒したコンテナについては、積み直しが完了。
- 5号機原子炉建屋で発生した残留熱除去海水系配管貫通部からの流入について、分析の結果、5号機タービン建屋滞留水が流入したものと判断したことから、同建屋へ仮設ポンプにて移送を開始。
- ろ過水設備の西側にある雨水を保管しているノッチタンクから漏えいした水の分析結果より雨水と判断。
- 陸側遮水壁設備について、自動停止していた設備の復旧が完了。
- 一時保管エリア（N）について、詳細に確認を実施したところ屋根は破損していないことを確認

以下、午後6時30分までに確認

- 一時保管エリアbについて、区分Ⅲパトロール後の詳細確認の結果、保管中のコンテナ数基が転倒し内容物が出ていることを確認。また、傾いているコンテナが数基あることを確認。なお、内容物の線量測定をした結果、バックグラウンド相当であることを確認。今後、準備が整い次第復旧を開始。
- サブドレン他浄化設備について、復旧が完了。
- 運用補助共用施設（共用プール建屋）において、燃料プール水の揺れにより溢水した水の拭き取りが完了。

午後7時15分 警戒事態該当事象（所在町で震度6弱以上の地震発生）における地震後パトロールの結果、確認された設備トラブルが発電所運営に影響を及ぼすことがないと判断した。よって、これより通常の監視態勢へ移行する。

時系列（9 / 12）

◆3月17日

以下、午後8時30分までに確認

- 3号機廃棄物処理設備建屋1階の配管貫通部からの水の流入について、ろ過脱塩器（B）室を確認したところ、内部に水たまりを確認。燃料プールの水揺れによりスキマサージタンクへ流入した水が配管から流出したものと判断。
- 5号機原子炉建屋で発生した残留熱除去海水系配管貫通部からの流入箇所の応急的な止水処理の結果、指4本程度の太さから、3秒に1滴程度まで減少したことを確認

以下、午後9時30分までに確認

- タンク水位計の指示不良については、水位計10台の復旧が完了し、38台全数の復旧が完了。復旧した水位計の他、全ての水位計の指示について異常のないことを確認

◆3月18日

以下、午後0時0分までに確認

- 運用補助共用建屋キャスク搬出入エリア天井クレーン（点検中）について動作確認をしたところ、走行動作ができないこと、および以下を確認
 - 目視点検において走行車輪用ギアカップリングのカバー 2 箇所に亀裂を確認
 - 横行動作およびフックの巻上げ・巻下げ動作に問題ないことを確認。
 - 今後、走行駆動装置の不具合や電気・制御系の不具合がないか等、詳細調査を実施
 - 共用プールの燃料冷却に問題はないことを確認

時系列 (10/12)

◆3月18日

以下、午後1時30分までに確認

- 淡水化装置 (RO-2) 亜硫酸ソーダタンクのスロッシングによる堰内漏えいについては、拭き取り清掃を行い異常の無いことを確認。
- 雨水モバイル受入タンク (A) の受入配管からの滴下については、配管内の水抜きを行い漏えいが止まったことを確認。なお、当該機は (B) 系が運用可能なため運用に支障なし。

以下、午後4時30分までに確認

- 多核種除去設備で処理する前と後の水を保管している中低濃度タンクについては、全数確認が終了し、160基のずれを確認したが、漏えいのないことを確認。なお、当該タンクは基礎に固定しておらず、ずれる設計となっている。
- 一時保管エリアbで転倒していたコンテナについては、積み直しが完了
- 運用補助共用施設 (共用プール建屋) の排気放射線モニタのサンプルポンプの停止については、運転を再開し異常のないことを確認

◆3月19日

以下、午後2時0分までに確認

- 雨水処理設備RO膜ユニット (A) A-1入口配管付近より確認されていた1滴/分の滴下について、滴下が停止したことを確認した。また、当該部への養生を行った。
- 3号機廃棄物処理設備建屋1階の配管貫通部から確認された水の流入について、流入が停止したことを確認。また、流入した水について拭き取りを行った。

時系列 (11/12)

◆3月20日

以下、午後3時0分までに確認

- 午前7時22分頃、サブドレン集水タンクNo.7接続配管から水が漏えいしていることを協力企業作業員が発見。状況は以下のとおり。
 - ・発生場所（設備名称）：サブドレン集水タンクNo.7
 - ・漏えい箇所：接続配管
 - ・漏えい範囲：堰内の深さ30mm
 - ・拡大防止処置：サブドレン集水タンクNo.6へ移送していたサブドレン中継タンクNo.3の移送ポンプを停止
 - ・漏えい継続の有無：漏えいの状況については、滴下程度に収まり、配管保温材から滴下している状況（1滴/5秒）。滴下している水については養生を実施済み。サブドレン集水タンクNo.1～7の水位に異常な変動はなし。
 - ・外部への影響：漏えいした水は堰内（高さ200mm）に留まっている。漏えい箇所については引き続き確認を実施。
- 本日タンクエリアパトロールにおいて、Eタンクエリアの内堰の雨水の水位が、昨日6cmの所、3cmに低下していることを確認。水位測定場所近傍に漏えい痕らしきものを確認したが現状、漏えいがないことを確認。今後、堰内雨水水位の変化の有無を継続して確認するとともに、準備が整い次第、漏えい痕の確認された箇所に対する補修作業を実施予定。なお、Eタンクエリアのタンク水位に変化がないこと、Eタンクエリア以外のタンクエリアの内堰の雨水水位の低下がないことを確認。建屋滞留水の移送状況について、パトロール及び警報監視において、漏えい等の異常なし。

時系列 (12/12)

◆3月21日

以下、午後5時0分までに確認

- 3月20日のEタンクエリアの内堰の雨水の水位が、昨日3cmの所、1cm程度に低下していることを確認。水位測定場所近傍の漏えい痕の確認された場所については補修作業を実施中。現状、漏えいがないことを確認。今後も、堰内雨水水位の変化の有無を継続して確認予定
- 3月20日のサブドレン集水タンクNo.7接続配管からの水の漏えいに関して、堰内の水についてトリチウムを分析した結果、検出限界値(77Bq/l)未満であることから、午後0時15分、雨水と判断。
- 午前11時39分、2号機タービン建屋西側にあるサブドレンピットNo.23のサンプリングを実施した際、採水容器に油らしき物を確認。当該サブドレンピットの油分分析を行ったところ9.8mg/Lの油分を検出。なお、サブドレンサンプルタンクにおいては、排水前に分析を行い異常がないことを確認した上で排水を行っており、直近の排水時における油分分析結果は検出限界値未満（検出限界値0.3mg/l）であることを確認。また、サブドレンピットNo.23及び連結管で繋がっているNo.24～No.27と中継1タンクシステムの汲み上げを停止。今後、サブドレンピットNo.23周辺のピット内における油分の有無や原因の調査を実施。状況は下記の通り。
 - ・中継タンクNo.1の油分分析をした結果、検出限界値U(0.3mg/L)未満であることを確認
 - ・この結果、No.23～No.27を除く中継タンクNo.1システムの汲み上げを、午後2時36分再開
- 午前11時2分頃、既設多核種除去設備建屋西側において、移送配管の漏えい検知器の作動を協力企業作業員が確認。状況は以下の通り。
 - ・発見時刻：午前11時2分頃
 - ・発生場所：既設多核種除去設備建屋西側。なお、目視したところ現場に水漏れがないこと確認。その後の状況は下記の通り。
 - ・配管は、RO濃縮水の移送配管、現場にて測定した結果、周辺450cpmに対して、検知器周辺が750cpmであることを確認。この結果から、現時点では雨水・結露水であると特定することが難しいと判断。漏えい検知器外への漏えいは確認されていないが念のため養生を実施
 - ・今後、準備が整い次第、詳細な確認を行う予定。

地震発生後の状況（3月17日のお知らせ済み）

■ 4号原子炉建屋カバ―建屋内における鉄骨補助部材の落下

発生（確認時刻）：3月17日午前6時29分頃

概要：外壁取り付け用の鉄骨の補助部材が落下していることを、当社社員が確認した。接合部のボルトが破断したことにより落下したものと考えている。なお、ボルトに有意な腐食は確認されていない。



梁のような鉄鋼の仕様
長さ約5.6m、幅約25cm、高さ約10cm
厚み約10～13mm、重さ約200kg



接合部のボルトが破断



地震発生後の状況（3月17日にお知らせ済み）

■ コンテナの状況



地震発生後の状況

■ 護岸際の設備等について

発生（確認時刻）：3月17日午前9時～午後2時30分頃

概要：護岸際の設備の点検結果

① 5・6号機敷地護岸ヤード

地表面での地割れや地盤の沈下を確認しました。

当該ヤードでは、現在、多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置に必要な環境整備工事を実施中ですが、工事中である立坑への影響は特にありません。

② 5号機南側斜路

5・6号機正門～2.5m盤に向かう道路で舗装や地盤の沈下を確認しました。

現状、車両が進入できない状況にあることから、早期に応急復旧対策を実施します。

③ 新設港湾ヤード

新設港湾ヤード全体で、舗装の沈下や割れ、護岸全体の沈下、護岸ブロックの変位等を確認しました。

現状、車両が進入できない状況にあることから、早期に応急復旧対策を実施します。

地震発生後の状況

護岸際の現状写真等

① 5・6号機敷地護岸ヤード



地表面の地割れ／地盤の沈下等



③ : 新設港湾ヤード

舗装の沈下・割れ／護岸全体の沈下／護岸ブロック変位等



【凡例】

①～⑥：写真撮影位置

提供：日本スペースイメージング（株）2021.4.8撮影
Product(C)[2021] DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

② : 5号機南側斜路

道路の沈下／地盤の沈下等



地震発生後の状況

■ 運用補助共用建屋 キャスク搬出入エリア天井クレーンについて

発生（確認時刻）：3月18日午後0時頃

概要：運用補助共用建屋 キャスク搬出入エリア天井クレーンについて

- 点検中である、運用補助共用建屋 キャスク搬出入エリア天井クレーンについて動作確認を実施したところ、走行（東西方向）動作ができないことを確認しました。
- また、各部の目視点検の結果から、走行車輪用ギアカップリングのカバー2箇所亀裂を確認しました。
- なお、横行（南北方向）動作およびフックの巻上げ・巻下げ動作に問題ないことを確認しています。
- 今後は、走行駆動装置の不具合や電気・制御系の不具合がないか等、詳細調査を実施していきます。なお、共用プールの燃料冷却に問題ありません。

地震発生後の状況



共用プール



キャスク搬出入エリア天井クレーン
共用プール建屋へ搬入したキャスクを搬送台車へ乗せるために、1階に設置されてある天井クレーン

